

平成二十二年 度

豊島岡女子学園中学校
入学試験問題

(一回)

国語

注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は から 、二ページから十八ページまであります。
合図があつたら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

□ 次の文章を読んで、後の一から十三までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

A 「先日電車に乗った時に、床に直接座って化粧をしている女子高校生らしき一団を目にした。社会的なマナーをわきまえず、公共の場でも自分の家の中のように振る舞う若者が増えてきているようだ」

B 「1あなたが目撃した一例をもとにして若者全体の傾向について述べるのは無理があります。議論の場では客観的なデータを提示してください」

議論で大事なものは、意見の客観性だけではありません。データや観察をもとに客観的な事実を積み上げることによって答えを出すそうとするやり方もちろん大事ですが、自分の個人的な体験をベースにして、自分の思ったことや考えたことを述べる2主観的な意見もまた、議論においては重要です。

Bさんのように議論の場で、ことさらに客観的なデータを要求するのも問題です。それは、相手に要求するものではなく、自分で示すべきものです。相手がわざわざ手間をかけて自分の体験を教えてくれるのに対して、自分に都合の良い要求ばかりをしているのでは、そのうち誰も何も教えてくれなくなってしまうと思います。「客観的なデータがない」ということは、「自分は何も知らない」ということです。自分は何も知らないということを自覚していて、少しでも何かを知りたいと思う人なら、客観的なデータでないからというだけの理由で情報を拒否することはできないはずです。Aさんの主観的な意見に対して反論をするなら、方法は二つです。自分で調査をして客観的なデータを積み上げるか、あるいは自分の主観的な意見で反論するかです。主観的な意見だからといって間違っていると決まったわけではありません。もし、Aさんの主観的な意見に対して「どうもおかしい」と思ったのなら、それもまた貴重な主観的意見です。遠慮せずに「どうも違和感がある」と言うべきです。議論はそこから始まります。

A 「そういう若者の手に握られている携帯電話と耳にはめられているイヤホンこそが、3この問題を象徴している。4自分がいる場所から自分を切り離すことが一般化してしまったせいで、公共の場所でのマナーが悪くなってしまった」

B 「何の証拠も示さないまま、また勝手な思い込みの垂れ流しははじまりましたね。5どういう根拠でそんなことを言うんですか」主観的な意見とは、自分の思ったことを言う意見です。そしてそれは、「少なくとも自分はそう思う」という意味で、一片の「6」を含んでいます。そう主張すること自体には根拠は必要ありません。マナーが悪い理由を根拠もなく携帯電話のせいにしてしまっているのか、と思われるかもしれません。しかし、Aさんの意見をよく読んでください。「携帯電話のせいである」とは書いてありません。これは単に自分の持っているイメージを相手に伝えるためのものですから、そこに客観的な根拠は要りません。携帯電話に集中して周囲で何かが起こっても気がつかない、という様子が相手の頭の中に浮かべばそれで目的達成です。主観的な意見では、自分の思っていることを相手に伝えることが第一目的であり、それが正しいかどうかは二の次です。

主観的な意見では、その存在そのものが正しいの証拠です。Aさんが携帯電話からマナーの悪さを連想するということは、そこにはおそらく何かがあるのです。誰も携帯電話から阿波踊りを連想しないように、何の関係もないものを連想したりはしません。もちろん、Aさんの言うことがそっくりそのまま正しいわけではないでしょう。しかし、どこが正しくてどこが正しくないのかを議論するきっかけとなります。

A 「7私の意見は、自分で正しいと思うから主張しているのです。『風が吹けば桶屋が儲かる』の論理は、言っている本人も正しいと思っていないでしょう。その違いです」

B 「自分で正しいと思うから正しいと主張するとは、だんだんインチキ科学者じみてきましたね。自分が間違っているかもしれないということを常に頭の隅においていないと、間違っていることを正しいと信じ込んでしまうことになります」意見を言う場合には、「自分の意見は正しい」という信念を持つことが重要です。ある意見を言おうとしているとき、もし自分で

もその意見が間違っていると分かっているなら、言うべきではありません。「自分の意見は正しい」という信念がないならば、意見を表に出してはいけません。その場合は、意見を表明する他にすることがあるはずです。自分の意見を表明するなら、「少なくとも自分が現在持っている知識では、自分の意見が正しいという結論しか出てこない」という状態にしなくてはなりません。これが「自分の意見は正しい」という「8」です。

自分が間違っているかもしれないということは、わざわざ言わなくても、誰もが当たり前に頭の隅に置いていることです。しかし、その意見は正しいかもしれないわけです。その意見が間違っているということを示す証拠がなく、その意見が正しいということを示す証拠があるのなら、9その意見を「正しい」とすることは、合理的な結論です。自分の意見が間違っているという証拠が出てきたら素直に「間違っていました」と言えば良く、それまでは、あくまで「自分の意見は正しい」と言っていればいいのです。相手の意見が間違っているという証拠がないのに「間違っているかもしれない」というだけで相手の批判をする人の方がずっと

「1」 10 「1」人なのです。

B「あなたはそうやって携帯電話や音楽プレイヤーの欠点ばかりを挙げますが、電車の中のムダな時間を有意義に過ごすという意味では、むしろいいことなのではありませんか？」

A「電車の中でまで音楽を聴くということがそんなに有意義だとは思えません。それよりは、静かに考え事をしたり、風景を見たりしている方がずっと有意義です」

B「あなたが音楽を聴くことより風景を見る方が好きなのは勝手ですが、それを人にまで押し付けなくてください」

A「別に押し付けてなんかないですよ。あなたの行動はあなたが決めればいいのです。私が言ったことを考慮に入れた上で」

主観的な議論は、最終的には「結論は各自で考える」というところに行き着いてしまいます。議論の結論とは、各自で結論を考えるための判断材料でしかないのです。議論の中で出されたすべての意見や発言、つまりは議論そのものが結論なのです。しかし、

その中の意見の数を数えるのなら、結論は一つではありません。

時々、「結論は一つではない」ということを間違えて解釈する人がいます。議論の中から自分に都合の良い意見だけを考慮し、その他のものは捨ててしまう人です。それでは何のために議論したのかが分からなくなってしまいます。議論をしたからには、そこで出たすべての意見を考慮に入れなくてはなりません。そういう意味で、結論は一つなのです。結論をそれぞれの意見の集合体と考えず、何らかの評価によって統一しようとする、それは結論の押し付けになります。もともと各自で考えるはずのものを、強制的に二つに決めてしまう行為だからです。しかし、結論の押し付けというのは現実には存在しない行為です。「結論を押し付けられている」と言う人は、実際には押し付けではないのに、勝手に押し付けであると解釈してしまっているのです。そしてそれはなぜかという、相手の意見を自分で評価するのではなく、すべてをそのまま受け入れなくてはならないと思ってしまうからです。結論は各自が考えるという前提に立つなら、11相手の意見はすべて一つの意見として受け入れることができるはずですが、主観的な意見とは、自分の思ったことを「自分がこう思った」というだけの根拠で書き散らしたものです。しかし、これは根拠がないわけではありません。人は、何の根拠もないものを突然結びつけたりはしません。どこまで言語化できているかは別として、そこに何かの関連性を感じたからこそ、そう思うようになるわけです。もちろん、この「感じ」は、正しいこともあれば間違っていることもあります。しかし、たとえ間違っているにせよ、何らかの知見は得られることでしょう。何らかの知見を得るための議論の出发点として、主観的な意見は大切なものです。

議論にとって主観性と客観性は車の両輪であり、どちらが欠けても議論はうまく前に進まなくなってしまう。出された意見に対して主観的な部分と客観的な部分をうまく判別して、それぞれにおいて適切に対処をする必要があります。客観的な意見は誰が見ても正しいと言えるものであるのに対して、主観的な意見はそうではありません。主観的な意見の場合は、聞き手が理解をしようと努力することが重要になります。

もともと、主観的な意見は、どうしても一人よがりになってしまいがちという欠点があります。主観的な意見を書く場合には、

それが不特定多数に向かつてなされるということを意識する必要があります。これはつまり、自分の意見は単なる個人的なものにとどまらず、他人にとっても重要なものになるだろうという自信です。こうした自信を持ってない意見は、主張する意味がありません。もちろん、自分の意見が何でもかんでも普遍的なものだと思いは思いますが、自分の意見をふるいにかけて、12個人的な部分と普遍的な部分により分けるのです。このように、主観的な意見は主張するのも受け取るのも難しいものです。しかし、困難を乗り越える努力をするに足る、大きな意義がそこにはあります。

(『議論のルールブック』 岩田 宗之)

問一 ―線1「あなたが目撃した提示してください」とありますが、このような意見を述べるBの姿勢を筆者はどのように考えていますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 共通の認識を持つために正直に自分の考えを述べてくれる相手に対して、その考えはデータや根拠がない主観的なものだとすべて否定してしまうような消極的な姿勢である。

イ 考えや情報を教えてくれる相手に対して、客観性を重視するあまりに勝手な要求ばかりをする一方で、自分自身で情報を収集して理解しようと努力しない非生産的な姿勢である。

ウ 本当は素直に相手の発言や人間性を信用したいと思うが、目に見える形での確固たる証拠がないと相手を信じてはいけな

いという思い込みに捉われている頑なな姿勢である。

エ 自分が知りたいと思うことでも人に調べてもらい、それを教わって自分の考えを客観的で正確なものにしていけばいいと考え、自分では少しも動こうとしない勝手な姿勢である。

オ たとえ自分が知りたい内容についてであっても相手の発言をうのみにせず、信頼すべきデータや事実などを要求して正しい情報だけを手に入しようとするような慎重な姿勢である。

問二 ―線2「主観的な意見」とありますが、議論において「主観的な意見」はどのような役割を果たしていますか。本文全体を踏まえた上で本文中から十八字で探し、最初と最後の三字を抜き出さない。

問三 ―線3「この問題を象徴している」とありますが、これはどのような意味ですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現代の若者の社会に対する甘えの原因となっている。 イ 現代の若者の無責任な態度を増長している。

ウ 現代の若者のマナーの悪化をよくあらわしている。 エ 現代の若者の乱暴な行動を生み出している。

オ 現代の若者の行儀の悪さを深刻化させている。

問四 ―線4「自分がいる場所から自分を切り離すことが一般化してしまった」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の人もいるような公共の場所においても、若者が周りの人の目を気にせずに自分しかいないかのような勝手な振る舞い

イ 代の年

ウ 若者は多くの人がいる公共の場に身を置いていても自分のしたいことを優先してしまうので、他者との交流の持ち方を忘れていくという現象がよく見られるということ。

エ 若者は他者との意志疎通をはかることが苦手なので、たくさんの方がいる公共の場であればあるほど自分が好きな世界に逃げ込みたがっているということ。

問五 ―線5「どういう根拠こんきょでそんなことを言うんですか」とありますが、BはAをどのように批判していますか。最も適当なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 公共の場で携帯電話けいたいを使用する若者のマナーの悪さは直しようがないと若者の可能性を全否定するような態度は無責任であると批判している。

イ 若者のマナーが悪化したのは事実であるが、若者を悪者にとらえて見下したような発言をする姿勢は非常にえらそうであると批判している。

ウ 公共の場所での若者のマナーが悪化したという指摘してきをするだけではなく、具体的に若者がどうすればよいのかという解決策を示すべきだと批判している。

エ 若者のマナーが悪くなった原因が携帯電話けいたいにあるという個人的な主張を反対する人たちにもわかるように誠意をもって説明すべきであると批判している。

オ 携帯電話のせいで若者の公共の場所でのマナーが悪くなったと決めつけているのは一方的であるので、その主張を裏付ける理由を挙げるべきだと批判している。

問六 空らん「6」と「8」に入る言葉として最も適当なものを次のア、イ、ウの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

6	ア 意見	イ 理由	ウ 虚構 きこう	エ 真実	オ 知識
8	ア 自信	イ 偏見 へんけん	ウ 誤解	エ 現実	オ 心情

問七 ―線7「私の意見は、自分で正しいと思うから主張しているのです」とありますが、このように主張できるためにすべきこととして最も適当なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「この場は自分の意見を言ってもよい場であるのだろうか」と真剣しんけんに考えてみる。

イ 「自分の意見が否定されるような事例はないか」とすみずみまで調べてみる。

ウ 「私の意見の言い方が良くないのではないか」と自分の取った方法を振り返ってみる。

エ 「自分が意見を述べられるほどの人物なのだろうか」と自身を疑ってみる。

オ 「自分の意見を正しいと支持してくれる人はいないだろうか」と人の力を頼たよってみる。

問八 ―線9「その意見を『正しい』とすることは、合理的な結論です」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア その意見が間違まちがっている可能性よりも正しい可能性の方が大きいので、二つの選択肢せんたくしのうち可能性の低い方を切り捨てるという方法は非常に効率的であるということ。

イ その意見が間違まちがいであるという根拠こんきょが見つからなくとも、現時点で正しいと思える場合には、あえてそれ以上根拠こんきょを探さないのが一般的いっぱんてきに取られる方法であるということ。

ウ その意見が間違まちがっているという根拠こんきょがなく、正しいという根拠こんきょしかないので、その段階においてその意見は正しいと結論を出しても道理や理屈りくつにかなっていて特に問題がないということ。

エ その意見が間違まちがいであるという根拠こんきょが見つからないので、今の段階で正しいという根拠こんきょを持つことを理由にしてそれが絶対的に正しい結論であるとする権利を持つということ。

オ その意見が間違まちがいであるという根拠こんきょが見当たらず、正しいという根拠こんきょがあるのならば、その意見を正しいと判断することは常識的な振る舞いであると言えるということ。

問九 空らん「 10 」に入る内容として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が相手の意見を受け入れたことを最後まで認められない
- イ 自分の考えがどこで間違ったのかをしつかりと考察するべき
- ウ 自分の考え違いを相手に伝えられていないことを知っている
- エ 自分の間違いを認めることができない頑固さを批判されるべき
- オ 自分の意見が正しくない可能性があることに気づけていない

問十 —線 11とありますが、相手の意見をどのようなものと考えれば「すべて一つの意見として受け入れることができる」のですか。答えとなる部分を本文中から十六字で探し、最初と最後の五字を抜き出しなさい。

問十一 —線 12「個人的な部分と普遍的な部分」とありますが、「個人的」と「普遍的」とほぼ同じ内容の言葉を本文中からそれぞれ漢字三字で探し、抜き出しなさい。

問十二 本文の内容として正しいものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間関係を円滑なものにするためには互いの意見を交換し合う議論の存在は不可欠であり、我々は自分から積極的に意見を言えるような強い心を養っていく必要がある。
- イ 同じ事柄に対しても人によって意見が異なるのは個性の表れであり、むしろその現象は好ましいことなので無理に互いの認識を統一しようと努力しなくてもよい。
- ウ 自分が知らない内容に関する意見を聞いたときについて厳しく批判するのは、相手が自分の不勉強さをさりげなく非難してきているように感じてしまうからである。
- エ ある人の意見に疑問を感じたときは自分も率直に意見を言つてよいのであり、そのような意見の交換によって相手との違いを見つけて自分の意見を確立できるような議論が展開される。
- オ 自分の素直な意見を真剣に伝えても受け入れない人は存在するもので、ある程度まで働きかけて共感を得られないと感じたときには説得をあきらめるのも一つの手段である。

問十三 本文からは次の一文が抜けています。入れるべき部分の直前の八字を抜き出し、答えなさい。

「『お前の意見は理解不能』と言っている人には、人の意見を理解することは永久にできないでしょう。」

二

次の文章を読んで、後の一から十三までの各問いに答えなさい。
(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

「ジャングル・クルーズ」も、二十周以上もつづけて乗ると船酔いしてくる。

やわらかな午後の陽射し。水面に乱反射する光の渦や、潤いを帯びてまばゆいばかりの輝きを放つ熱帯雨林の緑。絶好のアトラクション日和だった。どんな客だろうと、ワクワクしながら密林の川下りを楽しみ、満足して船を降りることになるだろう。

しかし、自分ばかりがついていた。コースを周ってきた三十人乗りの船が、港をAとした出発地点に横付けされても、降りることなくまた出発しなければならない。自分だけではない。ボートを埋め尽くすスーツ姿の男たちは誰ひとり、立ちあがることさえない。一周ごとに入れ替わるのは、ゲストではなく船長役のほうだった。

早瀬実は船の後方の座席で、姿勢を正した。疲労を感じている場合ではない。自分も、三十歳をすぎてようやく*スーパーバイザーなる肩書きを得た身だ。長い準社員生活の苦労がようやく実を結びつつある。周りの正社員同様、しっかりと準社員採用試験の審査員を務めねばならない。

快活な男の声が響いた。「百十七番、入ります」

栈橋からひとりの若い男が乗りこんできて、船首に立った。

「ジャングル・クルーズ」の船長役のそのキャストは、冒険家スタイルのコスチュームをそつなく着こなし、笑顔に白い歯を輝かせてゲストたちに向き合った。身長は百七十センチ前後、肌は浅黒く、身体もそれなりに鍛えているらしく引き締まっている。

船がゆっくりと動きだした。

密林を再現した空間に流れる一本の川を、楕円形の船が下りはじめる。側面に壁はない。2外に背を向けるかたちにベンチシートに並んで座るスーツ姿の男たち。彼らの射るような目は、たつたひとりの船長役のキャストに向けられていた。

青年は舵を握り、操縦するふりを始めた。船は、川底に敷かれたレールに沿って動いている。それをいかに船長の舵さばきで操

縦しているように見せるかが、最初のチェックポイントだった。

ところが、舵を回す動作と船のBシンロが同調していない。どうみても船長のほうがワンテンポ遅れている。

錦野が早瀬に耳打ちした。「操縦しているようには見えないねえ」

「はい。おつしやるとおりです」早瀬は書類に目を落とし、ボールペンで書きこんだ。演技とゆとりの項目にマイナス一点をCかす。

やつとこのことで舵を動かす芝居にそれなりの3説得力が生じ始めると、後藤大輔なる準社員候補はようやくほっとした顔をゲストに向けた。「えーと、いらつ……。いえ、あのう。こんにちは」

ため息まじりに錦野がいった。「いま、いらつしやいませと言おうとしたね」

「そのようですね」早瀬はゆとりの項にさらにマイナス一点を力した。いらつしやいませという挨拶は、ここでは禁句だ。

後藤大輔は大粒の汗を額に光らせながら、必死で笑顔をとりつくるって喋りつづけた。「みなさん、こんにちは。ジャングル・クルーズへようこそ。私は船長の後藤、これからみなさんを、ええと、ジャングルの不思議な旅、あ、いえ、不思議じゃなくて……不思議ってのはシンデレラ城のほうでしたよね、ここはなんだっけ」

しんと静まりかえった船内。密林から流れてくる鳥のさえずりや太鼓の効果音だけが響いている。後藤は笑顔のまま固まっていた。その表情がひきつりだしたところ、スーツ姿の乗員のひとりが助け「I」をだした。「神秘」

「そうそう、神秘。密林の神秘的な旅へとみなさんをお連れします」後藤は大仰な笑顔とともにそういったが、また手もとがおろそかになっていることに気づいたらしい、舵に飛びついて、船の進行方向に合わせて操縦の演技に興じた。

船を操る船長のはずが、どうひいきみにみても船に「4」しまっている。目もあてられない醜態だと早瀬は思った。緊張のせいであがつているにしても、ここまで痛い芝居にはそうめぐり合うこともない。

「ええつと」後藤はなおも満面の笑みを崩さなかった。額の汗はまるで滝のようだった。「まずはイラワジ川です。じゃない、ナイル……でもないや、ええと、アマゾン川でした。右手に見えてきましたのは、象さんですね。手を振ってあげましょう、こんに

ちはー」

後藤は右手を高々とあげて振ったが、5スートの男たちは誰ひとり同調しなかった。

機械的な動作で鼻を上下させる象、無表情で眺めるだけの乗員たち。後藤は気まずそうに、「Ⅱ」と目を泳がせていた。

「そのう」後藤は「Ⅲ」笑顔を必死で維持しながらまくしたてた。「ジャングルには、平和な動物ばかりじゃなくて、その、危険もいっぱいあるんですよ。ええと首狩り族、はまだだっけ、あの、ワニとかそういう……」

錦野が早瀬につぶやいてきた。「順番めちゃくちゃだね」

「ですね」早瀬はルーティーンの把握の項に書きいれた。マイナス一。

6ところがそのとき、後藤の目がふいにまた輝きだした。不安のいろはまだ*払拭されてはいないが、にわかに語気が強まる。

「みなさん、危険がいっぱい潜んでいるからって、そんなに怖がらないでくださいね。ジャングルには、それこそ危ないことはいくらでもあるし、タラちゃんでもあります」

唐突なギャグ。早瀬は鳥肌が立つのを感じた。

時間は止まっていた。静かだった。誰ひとり、咳ひとつしなかった。

東京デイズニールランドに、こんなに静かなアトラクションが存在したのか。長年勤めてきた早瀬にすらそう思える、異様な静寂があった。

そのとき、川辺に予期せぬものが出現した。ミッキーマウスとミニーマウスが密林から姿を現し、手を振っている。

後藤ひとりだけが呆然とたたずんでいる。ミッキーとミニーの登場があることは、彼には事前に知らせていない。ハプニングを

いかにゲストの最大限の喜びに結びつけるか、キャストの能力を試すためのテストだったのだ。

だが、後藤は唐突な展開についていけないらしく、「Ⅳ」笑顔でつぶやいた。

「あの……。やっぱ着ぐるみって、前見えないのかな。道に迷ったんですかね、あのふたり」

着ぐるみ……。

7早瀬は頭を抱えた。目の前にいる社員たちをゲストと見立ててキャストを演じねばならない、そういうシミュレーションの基本原理が、彼の頭からすっかり飛んでしまっているらしい。

「もういいだろ」と錦野が投げやりにいつて、腕組みをした。

同感だった。早瀬は傍らのメガホンを手にとり、それを通じて青年に声を張りあげた。「そこまで。百十七番、お疲れさまでした」

錦野はふうつとため息をつき、シートの背に身をあずけた。

「こんなの、採らなきゃいけないのかねえ」

「デイズニールシーができて準社員の数は一万人のままですし、ランドとシーの両方をやりくりしますからね。人手不足は相変わらずですよ」

「ま、午後の面接にだけは呼んでみるか」と錦野は後藤の履歴書を脇に置いていつた。

「いつでも笑顔を絶やさないと点だけは気にいつた。キャストには重要な8素質だ」

早瀬は首をひねりながら後藤のほうを見た。後藤は「Ⅴ」笑顔を保ちながら船首に立ち、船が出発地点まで戻るのを待っている。

錦野の見立ては正しいだろうか。

たしかに不安やストレスをオンステージに持ちこむことなく、いつも笑っていることはキャストにカせられた任務ではある。しかし、後藤大輔の場合はどこか違うように思える。キャストの笑顔はあくまで役割演技だ。

後藤は単に「天然」というだけではなからうか。素朴な疑問が、早瀬のなかで渦巻いていた。

(『ミッキーマウスの憂鬱』 松岡 圭祐)

〔注〕

- * スーパーバイザー 監督者。
- * ルーティーン いつもの手順。
- * 払拭 すべて取り除くこと。

問一 ―線1「しかし、自分はちがつていた」とありますが、「自分」は現在どのような役割で船に乗っているのですか。答えとなる部分を本文中から十字程度で探し、最初と最後の三字を抜き出しなさい。

問二 ―線2「外に背を向けるかたちには船長役のキャストに向けられていた」とありますが、「スーツ姿の男たち」が「船長役のキャスト」に望んでいるものは何ですか。最も適当な言葉を本文中から四字で探し、抜き出しなさい。

問三 ―線3「説得力が生じ始める」とありますが、どのような意味ですか。「く」という意味」につながる形で、具体的に説明しなさい。

問四 空らん「4」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 吸収されて イ 翻弄されて ウ 粉碎されて エ 許容されて オ 救済されて

問五 ―線5「スーツの男たちは誰ひとり同調しなかった」とありますが、この時の「スーツの男たち」の心情の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ここまでの「後藤」の演技があまりにお粗末なものであったので、冷ややかに見ている。

イ 「後藤」のペースに釣られそうになりながら、立場上客観的に演技者を評価しようとしている。

ウ マニュアルにない台詞で、これまでのミスをごまかそうとする「後藤」にもはや閉口している。

エ あえてしつけた雰囲気ゲストを演じること、で、「後藤」のキャストとしての力量をはかるうとしている。

オ ゲストが皆大人なのに、機械じかけの象を大げさに取り上げる「後藤」の幼稚さに憤りを感じている。

問六 ―線6「ところがそのとき、後藤の目がふいにまた輝きだした」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ここまで全く評価されていないことを確信し、逆に開き直ったから。

イ いやいよ最後のひと頑張りだと思い、緊張感を取り戻したから。

ウ 台詞をしっかりと覚えていた場面にかかり、余裕が出たから。

エ 船内の重苦しい雰囲気を一気に変えられるという希望を持てたから。

オ 自分の台詞に対するゲストの反応を見てうれしくなったから。

問七 ―線7「早瀬は頭を抱えた。くすつきり飛んでしまっているらしい」とありますが、「後藤」の決定的な失敗はどのようなことですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ミッキーマウスが人間の扮装であると思わず言ってしまったこと。

イ ミッキーマウスとまるで昔からの友人であるかのように接してしまったこと。

ウ ミッキーマウスが道に迷うような失敗をしたと暴露してしまったこと。

エ ミッキーマウスの人気にあやかっただけで自分を売り込もうとしてしまったこと。

オ ミッキーマウスの登場に興奮し自分の立場を忘れてしまったこと。

問八 ―線8「素質」と文意の上で、反対の意味で用いられている言葉を本文中から漢字二字で探し、抜き出しなさい。

問九 本文に登場する「後藤」の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 若者らしいさわやかさをもち、わざと台詞を間違えるなどの失敗を演じることで、周りの人々の緊張を解きほぐしている。
 イ いつでも調子よくふるまい、それで一定の評価を得てきたことで、まじめな取り組みをややばかにした言動がみられる。
 ウ 自分の楽しみより人をもてなすことを優先してきたことで高い評価を得たと確信し、自分の合格に自信を持っている。
 エ 緊張を軽い調子のおしゃべりでごまかそうとするが、失敗を重ね、落ち込んでいる様子がはっきりと見えてしまっている。
 オ 周囲を楽しませようという努力はするものの、ことごとく空回りをし周囲の人々をあきかせてしまっている。

問十 空らん「Ⅰ」に漢字一字を入れて慣用句を完成させなさい。

問十一 空らん「Ⅱ」に入れる言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア とぼとぼ イ らんらん ウ おろおろ エ ぎらぎら オ ばちばち

問十二 空らん「Ⅲ」・「Ⅳ」・「Ⅴ」に入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------------|------------|----------|
| ア | 〔Ⅲ〕消えそうな | 〔Ⅳ〕ひきつった | 〔Ⅴ〕屈託のない |
| イ | 〔Ⅲ〕緊張した | 〔Ⅳ〕泣き出しそうな | 〔Ⅴ〕最高の |
| ウ | 〔Ⅲ〕真剣な | 〔Ⅳ〕楽しそうな | 〔Ⅴ〕満足げな |
| エ | 〔Ⅲ〕泣き出しそうな | 〔Ⅳ〕思いがけない | 〔Ⅴ〕屈折した |
| オ | 〔Ⅲ〕にらみつけるような | 〔Ⅳ〕不安そうな | 〔Ⅴ〕いじけた |

問十三 線A「モ」・B「シンロ」・C「カ」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。(二画一画でいいいにはっきりと書くこと。)

※らんには記入しないこと

受験番号

氏名

得点

一

問一

問二

§

問三

問四

問五

問六

6

8

問七

問八

問九

問十

§

問十一
個人的

普遍的

問十二

問十三

二

問一

§

問三

という意味

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

問十三
A

した

B

C

す

※

※

※

※